

ドキュメンタリー映画
「獄友」(100分)

獄中生活、合わせて一
五五年！奪われた時間
の中で、彼らは何を失い、
何を得たのだろうか？！
二〇一七年秋公開予
定！

「SAYAMA」、「夢
の間の世の中」につづく
(以下、映画「獄友」
のパンフに掲載されてい
た金聖雄監督の映画紹介
文を転載させていただき
ました。)

「シリーズ三作目だか
らこそ、できることがあ
るはずだ！」金聖雄監督
「なぜ再審が始らない
のだろうか」

「なぜ彼らはあんなに
まっすぐ生きていくな
らう」

だ。に人なをつ許心契年い悪得。が軍え「こらと客分しに言な何も入章ヨばつ落ま言境れ

「また冤罪映画!？」と
思う人もいるだろう。し
かしどうしても描かなけ
ればならないものがある。
彼らは人生のほとんどを
獄中で過ごした。いわれ
の無い罪を着させられ、
嘘の自白を強要され、獄
中で親の死を知らされた。
奪われた尊い時間は決し
て取り戻すことができな
い。しかし、絶望の縁に
いたはずの彼らは声を揃
えて言うのだ。「不運」
だったけど、「不幸」で
はない、我が人生に悔い
なし」と。冤罪など、許
されるはずがない。

しかし、彼らにとつ
て「獄中」は生活の場
であり、学びの場であり、
仕事場であった。まさ
に青春を過ごした場所
なのだ。「冤罪被害」
という理不尽きあまり
ない仕事を受ねば
ら、五人は無実が証明
されることを信じ懸命
に生きたのだ。時に涙
し、怒り、絶望し、狂い、
そして笑いながら…。

冤罪被害者の横のつ
ながりはほとんどな
かったが、「足利事件」
の菅家さんの釈放を
きっかけに、彼らは同
じ痛みを抱えるものと
して、お互いを支え合
うようになった。はじ
めて彼らの話を聞いた
時、どんなに重い話をき

れるだろうかと緊張し身
構えていたが、会った瞬
間、笑いをこらえること
ができなかった。自分た
ちのことを「獄友(ごく
とも)」と呼び、獄中で
の野球や毎日の食事や仕
事のことを懐かしそうに
語り、笑い飛ばす。そこ
には同じ「冤罪被害者」
という立場だからこそわ
かり合える特別な時間が
あった。

そしてなぜ自白したの
か、獄中で何があつたの
か、娑婆に出てからのそ
れぞれの人生を自ら語っ
てくれた。

奪われた時間の中で、
彼らは何を失い、何を
得たのかを描き出す。

そこからあぶり出され
るものは、司法の闇で
あり、人間の尊厳であり、
命の重さだ。

「青春のまつただ中に
いる。」

ぜひ、一緒に作品づく
りに参加していただけれ
ば、うれしい限りで
ある。」

キムーン フィルム
東京都小金井市東町四・
八・一三小出ハイツ二〇
一

電話 042-316-5567

FAX 042-316-5882

e-mail : info@

gokutomo-movie.com

HP:gokutomo-movie.com

2017.8.10 救援新聞